



第13期

「京都教師塾」

平成30年12月1日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第2回教育実践特別公開講座 講師：学校指導課 大菅 佐妃子 指導主事 「外国にルーツをもつ子どもたちの教育 ～日本語指導が必要な子どもたちへの支援について～」

今回は、学校指導課の大菅佐妃子先生にお越しいただきました。「外国にルーツをもつ子どもたち」と一言で言っても、近年非常に多様化しています。また、日本語指導を必要とする児童・生徒が在籍する学校も年々増え、散在化する中、その支援が喫緊の課題となっています。そこで、本市の様々な支援体制について詳しく教えていただきました。また、「もし、自分のクラスに対象となる子どもが編入してきたら…」という大菅先生からの問いに、隣どうして熱心に話し合う姿が見られました。



実際の授業における、外国にルーツをもつ子どもたちへの支援の仕方についても、事例をもとに具体的に紹介してくださいました。今回のお話を切り口として、支援や配慮が必要な子どもたちへの一人一人に応じた支援が、最終的には全ての子どもたちの学力保障につながるのだということに気付くことができたのではないのでしょうか。

第3回京都市教育学講座 講師：中堅教員2名 「子どもを豊かに育む教育」



午後からは2名の中堅教員の方に実践発表をしていただきました。2名とも皆さんの先輩である卒塾生で、小学校籍の先生は現在2年生の担任、中学校籍の先生は3年生の担任をしておられます。お話を聞いて、一人一人違う背景を抱えた児童・生徒に対し、様々なアプローチをしてこられたことに気付いたことと思います。また、一人で抱え込まず、教職員みんなで子どもを育てていくこと、そのためには謙虚さや素直さをもって先輩の助言を聞くことが大切だとおっしゃっていました。

分散会では、「子ども主体の教育活動をどう作る？」というテーマで話し合いを行いました。前回の若手教員の時と同様、各分散会場を回ってくださった2名の先輩方に、積極的に質問する姿が見られました。

お二方とも「毎日が違う一日、同じ日は二度とない」と話されたように、現場は大変なこともあります。それでも「子どもが好き、教師になってよかった」「魅力ある仕事」だとおっしゃいました。毎日子どもと真摯に向き合ってこそその言葉だと思います。ぜひとも学校実地研修で現場について学び、「今」の自分に何ができるのかを考えていってほしいと思います。



補講の様子
(11/20)

仲間のレポートに学ぶ



第3回京都市教育学講座【講義】

「子どもを豊かに育む教育」を受講して

1 全体会

今日の講義を聞いて、子どもの良さを見つけ、伸ばしていくことができるようになりたいと強く思いました。トラブルの多い子どもは、どうしてもその子の悪い部分に目がいきがちになってしまうと思います。しかし教師が注意ばかりしては、その子自身の気分も良くないし、クラス全体の雰囲気にも影響を与えたいと思います。そうではなく、この子にはこのような素敵部分があるのだと気づき、その部分を生かしていくことで、その子自身も変わる一つのきっかけになるのだと思いました。また、落ち着きのない子の事例で、どのような時は落ち着いているかを考えた先生がおっしゃっていて、そのような発想転換ができる柔軟性もとても重要であると感じました。さらに、板書の支援の例はとても新鮮でしたが、発達障害のある子どもたちや日本語指導が必要な子どもたちへの支援としても生かすことができるなと感じ、とても勉強になりました。

2 分散会

分散会を通して、子どもたちが前向きに、そして主体的に学校生活を送るための根本は、まず学校が楽しいと思えることであると思いました。その楽しさは授業なのか、友達と過ごすことなのか、行事なのかなど様々あると思いますが、子どもたちが楽しいと思ってもらえるように、目の前の子どもたちの反応や実態に合わせながら、教師が目的意識をしっかりと持ち、一つ一つ取り組んでいく必要があると思いました。学校への楽しさがあれば、子どもたちも自然と友達や自分について理解し、認め合い、学級の雰囲気も良くなっていくのではないかと思います。

3 まとめ

クラスには、一人一人個性の違う子どもたちがいますが、その一人一人に応じた指導はもちろんのこと、クラス全体を見る広い視野を持てるようになりたいです。また、子どもの主体性を大切にするために、教師が先々に口を出すのではなく、見守りながら待つという心の余裕も持てるようになりたいと思いました。

人は身近な人や周囲の人に認められることによって、初めて自己肯定感を持つことができるということですね。様々な背景を持つ子どもたちといかに関わり、子どもの個性を伸ばさせるか、子どもが主体となる授業や学級はどのように作るのか、学校実地研修の実践から学んでいきましょう。

フィールドワークの様子

花背山の家(11/10)



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
子どもを豊かに育む京都市民意識を实践しましょう!



京都はくくみ意章